

人と比べず 自分に勝つ

こども記者の質問に、ついおいに答えるワイナイナさん



ランニング教室が昨年11月3日、六義公園運動場(本駒込6)で開かれ、オリンピックでケニア出身のエリック・ワイナイナさんにインタビューしました。

オリンピックマラソンメダリスト
エリック・ワイナイナさん

2021年(令和3年)
3月12日 第10号

各面の内容
2 サッカーミュージアム



4 ドイツのスポーツ事情

オリンピック・パラリンピックこども新聞は、こどもたちが記者になって取材や写真撮影に取り組み、みなさまにおとどける新聞です。

第10号は新型コロナウイルス対策の上、2020年12月までに取材した記事で構成しました。

小さな積み重ねが大きなことにつながる

ワイナイナさんはマラソンランナーとして、1996年のアトランタオリンピックで銅メダル、2000年のシドニーオリンピックで銀メダルを獲得。会ったときの印象は「笑顔がとても素敵な方だな」でした。ワイナイナさんは、小学校までの道のり10キロを毎日裸足で通い、当時所属

していたサッカー部と陸上部の大会で1位になった時初めて、「自分は足がはやいんだ」と知ったそうです。とにかく大切なのは、小さいことをつみ重ねが大きなことにつながるということ。今回、ワイナイナさん取材して、やはり陸上は楽しいなと思いました。【小6/小貫美佳】



ワイナイナさんに走り方を教わる子どもたち

電気、水道もなく 裸足でサッカー

ケニアでは小学校までおふく20キロを走って通っていたそうです。電気も水道もないので、平日は小学校から帰ってきてからお母さんやお父さんのお手伝いをして、暗くなる前に宿題をしていました。お休みの日は、友達とサッカーを

したり、木にのぼったり、カバやワニがいる池で遊んだり。くつも、サッカーボールもないので、サッカーボールは自分たちで作って、はだしでサッカー。日本の生活とはまったくちがうので、私はいつてみたいと思いました。【小4/数田麻華】

ケニアでは片道10キロを走って通学

人の話を聞き工夫して練習

私たちはワイナイナさんのランニング教室に参加し、インタビューをしました。ランニング教室では、「他の人と比べずに、自分に勝つことが大切」と教えてくれました。速く走るコツを聞いてみると、「練習のつみかさねや、自分から率先してやること」と言っていました。ワイナイナさんは、実は高校からマ

ラソンの世界へ入ったそうです。それまではサッカーをやり、ボールはビニールやひも、発泡スチロールで作っていたそうです。私はインタビューを通して「しっかりと人の話を聞き、自ら工夫して練習にはげむことが大事だ」と思いました。

【小5/洲巻文緒】

「自分は速い」高校から競技

ワイナイナさんはケニア出身のマラソン選手でした。ワイナイナさんは小さいころ、学校に行くために10キロも走ったそうですが、自分では、自分の足が速いとは思えなかったそうです。高校から足が速いとわかり、マラソンを始めました。

彼は、学校から帰ると、両親の手伝いをし、水をくんだりし

て、学校の宿題をやりました。学校が休みの日は、友達と遊びました。たとえば、ゾウやカバをおこらせてにげて、木にのぼったり、発泡スチロールを袋でつつんだボールでサッカーをしたりしたそうです。楽しそうですが、いろいろと大変だったそうです。

【小4/蔣雨彤】

教育プログラム
 [よい、ドン!]

